

※ 当該様式は、「事業所自己評価」の結果を整理するとともに、その結果を運営推進会議へ報告するための様式として使用します。また、運営推進会議において得られた主なご意見等は、次ページ以降の「運営推進会議における意見等」の欄にメモします。

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目1~10)	新規開設から3年間で、経営の安定化や事業の周知が段階的になされてきた。4年目以降は更に利用者・家族・関係機関・市等からの要望を踏まえ、いわしぐもらしい事業の在り方や取り組みを確立していく。	看護小規模多機能型居宅介護事業の役割・基本理念に立ち返る習慣を継続するよう心掛けてきた。	空床利用の短期入所や生活介護も適宜組み入れながら、サービスの提供を実践してきた。生活介護対象者に関しては、看護師だけでなく、介護職も関わっていけるようしていく必要がある。 事業所の基本理念やケアの方針は、原点に立ち返ることを常に意識してきた。	・今後もいわしぐもらしい事業が確立されるよう期待しています。 次年度の運営推進会議で取り組みの様子を聞かせていただきたい
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供(評価項目11~27)	多様な利用者・家族の状況やニーズを踏まえ、看護・介護が様々な方法で情報共有を図かり、サービスを行なっていく。	医療・介護両面の関わりを要す方への対応を前向きに実践し、安心・安全な看護・介護が行えるよう努力してきた。	看護小規模に課せられた、医療・介護両面からのサービス提供を実践し、少しずつだが、看護小規模の機能と役割が地域に根付いてきている。

2. 多機 関・多職種 との連携 (評価項 目 28 ~ 31)	利用者・家族・地域のニーズを把握し、事業所業務に反映させていく。	登録前からの関係各所との連携を強化し、また、入院中の利用者の様子も把握しに伺いながら、丁寧に対応できるよう努力してきた。	登録者を紹介して頂いた居宅介護支援事業所には、定期的に訪問し、その時点での紹介利用者の様子等を伝えるよう心掛けている。	
3. 誰でも 安心して 暮らせる まちづくりへの参 画(評価項 目 32 ~ 41)	これまで手が差し伸べられなかった地域のニーズを把握し、できる限りの対応をしていく	<p>今年度は登録者中心の訪問看護で対応していた時期も多かったが、併設訪問看護ステーションとの連携が強化されたため、登録者以外への訪問看護の積極的な実施が可能となった。</p> <p>介護職のたん吸引に関しては研修を修了している者も増えている。人工呼吸器の受け入れに関しては受け入れ体制を強化していく必要がある。今年度は対象者が少ないので、受け入れ人数は少ない状況にあった。</p>	マザーホーム戸室の「研修室」「戸室のひろば」は、地域に開放しており、介護予防の取り組みや、各種ボランティア活動、地域の関係各所の会議・取組等に活用されている。	
III. 結果評価 (評価項目 42~44)		毎月のモニタリングや総合マネジメントカンファレンスでの計画の評価・修正にて利用者ごとの計画目標を達成できるように努めた。	利用者満足度調査の結果では半数以上の利用者家族から何らかの安心感を得られているとの回答が寄せられている。	

※「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目	改善計画（案）	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療ニーズの高い利用者・家族が安心して利用できる事業所運営をめざす ② 研修等で職員の技術向上の継続を支援する ③ 安心して働ける就業環境を整備する 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~27) <ul style="list-style-type: none"> ① 訪問看護・訪問介護の充実を図り、24 時間の在宅生活を支援する ② 「状況変化の予測」については家族にもできるだけ速やかに具体的な予測情報の提供と支援方法を提示する 	
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28~31) <ul style="list-style-type: none"> ① 病院・施設等からの円滑な在宅生活への移行のための情報共有を強化する ② 医療機関・主治医との連携を図り、体調変化時に速やかに対応できる体制を整える 	
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32~41) <ul style="list-style-type: none"> ① とむろの広場の利用団体と連携し、地域の方々とふれあえる機会を増やす ② 在宅で介護をしながら生活している方々の相談や介護力向上を支援できる取り組みを行なう 	
III. 結果評価 (評価項目 42~44)	開所 5 年目の区切りとして、過去 4 年間の事業運営を精査し、本来求められている看護小規模多機能の役割を新たな事業展開に繋げていく	

※「改善計画（案）」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足			
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない					
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]										
(1) 理念等の明確化										
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践										
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	<input checked="" type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑤の理念は明確にされ、全員がわかる場所に掲示されている ・おおよそできていると聞いているが、医療行為などで課題もあると聞いてるので今後の対応に期待したい ・看多機の特徴を生かし、利用者家族のニーズに合った理念が明確に示されていて理解しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」 			

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		<input checked="" type="radio"/>			<ul style="list-style-type: none"> ・3年が経過し、職員の理解は定着、サービスに実践されている ・よく理解され運営されていると思う ・利用者の望む支援と必要な支援、家族のニーズに合わせたケアプラン作成と様々な支援が適切に実践されている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		<input checked="" type="radio"/>			<ul style="list-style-type: none"> ・個別育成計画が作成され、知識向上・技術向上のための研修、面接等を行ない人材育成されている ・カンファレンス・研修などで育成計画がされている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・内外の研修に参加し専門技術を取得、業務に活かしている ・個別育成計画が作成され、積極的に取り組んでいると思う 	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>外部研修についての詳細情報を掲示し、それを基に参加している。また、受講した研修内容を会議やカンファレンスの場で職員に発表、共有できるようにしている</p>					
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・会議等で情報が共有されている 	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足			
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない					
(3) 組織体制の構築										
① 運営推進会議で得られた意見等の反映										
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に運営推進会議が開催され、議事録作成し全員に周知。業務に反映している ・会議での要望に対しては情報共有され、反映できるよう努めている ・会議は適切に運営され、情報共有もなされているようだが、一番要望をきちんと出すべき利用者家族の出席者が少なく残念（個別の要望は訪問等で集約されていると思うが） 	<input checked="" type="checkbox"/> 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します			

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
<p>② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備</p>							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・就業環境は良いが、勤務時間に変更が多く、対応体制の検討が必要 ・職員に精神的な負担がかかるないよう環境整備を整えてもらいたい ・常々柔軟なサービス体制をとっていただきありがとうございます。利用者側からは職員の方々の就業環境（時間・曜日・人数など）がよくわからない。どのような利用の要望が職員の方々の時間的・精神的負担となってしまうかを教えていただき利用者側も理解していくことができればよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことができる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足		
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない				
(4) 情報提供・共有のための基盤整備									
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備									
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・担当制であるが、変更がある場合職員間で正確に記録・伝達対応をしている ・申し送りノート等で工夫がされている ・利用者などの情報については職員間でよく情報共有が行なわれていると思う 	<input checked="" type="checkbox"/> 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します		

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足			
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない					
(5) 安全管理の徹底										
① 各種の事故に対する安全管理										
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議でも報告され、指摘や対策がとられている ・事故報告・ヒヤリハット報告が適切に行われていると思う 	<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>			

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている			○		<p>・台風 19 号では、地域の災害弱者を緊急収容対応され感謝されました。災害対応マニュアルの作成と訓練</p> <p>・防災訓練で利用者の対応はできていると思うが、地域の方、特に高齢者・障碍のある方の対応なども取り入れてもらえるとよいと思う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足			
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない					
II サービス提供等の評価										
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供										
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成										
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施										
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・24 時間の暮らし全体のアセスメントは行なわれている ・おおよそできていると思うが、弱い部分は改善し取り組んでいただければと思う ・適切に行われていると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります 			
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・介護職・看護職間で常にカンファレンス・情報共有し、実践されている ・モニタリング等で共有されている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます 			

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
<p>② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成</p>							
13	○ 家族を含む利用者等の考え方を把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と家族との考え方には相違が多いようで、現状を考慮して計画作成している ・家族と利用者、両方の意向をよく聞いていく努力をされている ・利用者とその家族の考えに相違がある場合、意向の聞き方に工夫が必要かと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考え方を含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に合わせた計画が作成、活用されている ・利用者ひとりひとりのケアプランが作成されている ・利用者・家族にとって一番重要な部分であるが、情報共有と連携が大切だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
(3) 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・看護師・医師で医療面を重視し家族とも話し合い、計画作成されている ・今後の予測については家族とも話し合われ計画が作成されている ・「状況変化の予測」については家族にもできるだけ早くに具体的な予測情報の提供と支援方法の提示をしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・状況変化が予測されたときは、検討協議しリスクを最小限にしており、早期計画に反映している ・リスクを最小限にとどめるよう早期からの計画に取り組んでいると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族の意向で偏りがでて苦慮することもあり、状況把握し計画修正し対応している ・通い・泊りのバランスは難しい状況のようだが、多方面のサービスも利用し工夫されている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・主治医および各担当者間で情報共有されている ・関係機関と連絡調整が行われ情報が共有されている ・各職種の方々との情報共有や連携がよくなっているので利用者家族も安心できる状況である 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足			
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供										
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供										
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		<input checked="" type="radio"/>			<ul style="list-style-type: none"> ・介護・看護職員の専門的役割分担ができており、業務が行なわれている ・柔軟な対応で協力が行なわれている ・利用者家族にとっては各職種の専門性を活かしながらもその役割分担が柔軟に協力的に行なわれていることが「いわしぐも」の良い点だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です 			
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		<input checked="" type="radio"/>			<ul style="list-style-type: none"> ・介護・看護職員で常に記録、対応を協議・情報共有し連携が図られている ・毎朝の申し送り等で充分に連携は取れている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します 			

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
(2) 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン・計画書で説明 ・看護職からの具体的な提案・助言等もあり、努力されている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
(1) 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・利用者へわかりやすく丁寧に説明されている ・繰り返し説明を続ける中で理解を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
(2) 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン・計画書で説明 ・本人の意向と家族の希望を取り入れ理解を得るようにしている 	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・看護師と医師が連携し、わかりやすく取り扱い説明をしている ・主治医との連携のもと、丁寧な説明で理解を得ている 	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
(3) 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		<input checked="" type="radio"/>			<ul style="list-style-type: none"> ・医師と連携を密にして、丁寧に対応 ・本人の意向を踏まえニーズに合わせたサービスを提供している 	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		<input checked="" type="radio"/>			<ul style="list-style-type: none"> ・今後のことの想定し、家族・関係者を交え対応を協議している ・本人・家族・関係医療機関・ケアマネで協議し共有できている 	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			・在宅看取り希望のご家族へパンフレットを活用して説明がされている 〔具体的な状況・取組内容〕 在宅看取り希望の利用者も増え、主治医から終末期対応の指示が出た際は、事業所で作成したパンフレット等を活用して家族への説明を行ない、利用者家族の希望や意向を把握しサービスを提供している。記録に関しては、併設の訪問看護ステーションとの情報共有の強化が必要である。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○			・万全の対応を望む ・円滑な支援はできているが、情報量の少ない方への課題が残っている 〔具体的な状況・取組内容〕 退院時カンファレンスや担当者会議・サマリー等での情報共有を行ない円滑な在宅生活への支援に努めているが、情報量が少ない状態での開始となつた事例もあり、課題となつている。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			・緊急時のオンコール・家族への連絡先把握で急変時の対応ができている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			・自己評価では急変時でも即対応体制ができていることで安心	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足			
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない					
(2) 多職種との連携体制の構築										
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討										
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・毎回会議に参加、報告を受けている。自宅訪問支援等不可で説明報告を聞いての理解であり、現場訪問は難しい ・2か月に1回会議が行われ情報共有しています ・地域と共有すべき情報が適切に提供されている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です 			
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画										
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案										
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信										
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・議事録を後日いただいている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します 			
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>会議録を概ね1週間以内に掲示し、職員間で回覧・情報発信を行なっている。</p>										

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		<input type="radio"/>			<p>・施設に足を運んでくれた方々には理解されつつあるが、さらに進めていってほしい</p> <p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>複合型施設としての催し物や広報誌などでの地域の繋がりは継続して行えていたが、今後新たな積極的啓発活動も考えていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している			<input type="radio"/>		<p>・組織変更 今後に期待</p> <p>・今後は登録者以外の方への対応が改善されていくと聞いている</p> <p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>今年度は登録者中心の訪問看護で対応していた時期も多かったが、併設訪問看護ステーションとの連携が強化されたため、今後は登録者以外への訪問看護の積極的な実施が期待できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、【具体的な状況・取組内容】欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
(2) 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		<ul style="list-style-type: none"> 大半の職員は研修修了者。体制を充実し受け入れていただきたい 体制は整っているが、対象者が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れができる体制」が整っていない場合は、「全くできない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		<ul style="list-style-type: none"> 体制は整っているが対象者が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れができる体制」が整っていない場合は、「全くできない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
37	○「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・体制充実。看取りを3回行なった ・看取りが現状行なわれていて積極的に受け入れる体制ができている <p>[具体的な状況・取組内容] 看取りを施設内にて現状2回、在宅で1回行なった。訪問看護ステーションとの連携強化にて積極的に受け入れられる体制も強化された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れができる体制」が整っていない場合は、「全くできない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画

① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解

38	○管理者および職員が、行政が介護保険事業計画などで掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・関係者は良く理解している。個人差は否めない ・地域包括ケアシステムの情報は施設長中心に共有されている <p>[具体的な状況・取組内容] 地域包括ケアシステムに関する情報提供、研修参加での周知もあり、職員間での内容等の理解度は深まっている。しかし、個人差があるのは否めない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
			よくできている	おおよそできている	あまりできていない		

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
(2) サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・広く地域の在宅医療を支える中核的存在になると願います ・市全体で実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
(3) 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		<input type="radio"/>			<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は台風などの災害も多く、市への課題提起や相談をされている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ・地域への場所の提供や勉強会イベントなど地域交流を行なっている ・地域交流や家族交流の場を提供され、理解されつつあると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>毎月のモニタリングや総合マネジメントカンファレンスでの計画の評価・修正にて利用者ごとの計画目標はほぼ達成できているが、達成途中で終了の利用者もあり、情報提供や継続依頼をしている。</p>	<p>・十分に達成されていると思う</p>	<p>✓ 「計画目標の達成」について、評価します</p>
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>利用者満足度調査の結果では半数以上の利用者家族から何らかの安心感を得られているとの回答が寄せられている</p>	<p>・多くの利用者家族から安心感を得られている</p>	<p>✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>パンフレット等を使用し、看取りまでの具体的流れを説明、訪問介護・訪問看護を強化し、寄り添うことで安心感を得られている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看取りまで本人や家族に寄り添い安心感を得られている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」